

2月21日
現われた神の義
ローマ3章19～22節

3:19 さて、私たちは、律法の言うことはみな、律法の下にある人々に対して言われていることを知っています。それは、すべての口がふさがれて、全世界が神のさばきに服するためです。

3:20 なぜなら、律法を行なうことによっては、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。

3:21 しかし、今は、律法とは別に、しかも律法と預言者によってあかしされて、神の義が示されました。

3:22 すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。

今日は
「神の義が示されました。」
という3章21節から
「現れた神の義という」
テーマで説教をします。

プロテスタント教会の
三大原則があります。

1. 聖書のみ
2. 信仰のみ
3. 恵みのみ

2番目を信仰義認とも言います。
人が義とされるのは
行いではなく信仰によってのみ
儀式ではない
律法の善行ではない

聖書の中で信仰によって義とされた
人々の歩みを学んで行きたいと思います。

聖書で最初に義とされた

と書かれている人物は

創世記15章6節

「アブラハムは主を信じた。

主はそれを彼の義と認められた。」

と書かれています。

アブラハムは神様のお示しにより
カルデアのウルを出発しました。
途中のハランという所まで行って
そこで父テラがなくなるまで滞在して
アブラハム75歳の時、ハランを立って
約束の地カナンに向かって出発しました。

12章でアブラハムは
大いなる民とするという言葉
あなたを祝福するという約束を信じました。
この神様のことばを信じて
生まれ故郷、父の家を離れ、
カルデアのウルを旅立ちました。

それから何年もたちましたが子供は
生まれません。

神様はアブラハムに語られました。
「あなた自身から生まれ出てくるものが
あなたの跡を継がなければならない。」
とあなたから子供が生まれると
15章4節ではっきりといわれました。

アブラハムは75歳を超え、
妻のサラは65歳を超えて今まで
子宝に恵まれない人生を送っていました。
ここではっきりあなたから生まれ出る者
といわれました。

15:5 そして、彼を外に連れ出して仰せられた。
「さあ、天を見上げなさい。
星を数えることができるなら、
それを数えなさい。」さらに仰せられた。
「あなたの子孫はこのようになる。」

15:6 彼は【主】を信じた。
主はそれを彼の義と認められた。

15章でアブラハムは夫婦とも高齢になって
出産の可能性はどんどん
絶望的になっていきます。

人間の力ではできないことでも
神様は出来る、信じなさいと語られました。
自分の努力や能力、頑張りではできない。
ただただ信じる、受け入れるよりほかはない、
自分の無能力を認め、
神様の全能の力を信じる
これが信仰であり、
信仰義認、信仰による救いです。

アブラハムにも行いや思いにおいて
人間的な問題、弱さ、罪はありました。

完璧な人ではありません。

12章で飢饉のときエジプトに行ったとき、
自分の保身のため

妻のサラを妹と偽っている。

エジプト王はサラと側室にしようとしていた。

妻を守らない罪びとのアブラハム。

16章では子供が生まれないので
信仰が揺れて
女奴隷ハガルを側室にして
子供イシュマエルをもうけています。
動揺するアブラハムを神様は絶えず導き
赦し励まし語りかけています。
アブラハム100歳の時
イサクが生まれ約束は成就しています。

自分の無能力が突きつけられる時
自分の力、人の力、
体力、能力、過去の経験、
全てがはぎとられても無能になっても
なお、全能の神は人格的に交わってくださる。
アブラハムは無力であり、失敗をしても
神様を信じ続けました。
このように神様を信じることが
義とされる信仰です。

もう一人無力の中で信仰を持った人を
新約聖書から紹介します。

ヨハネ5章

5:1 その後、ユダヤ人の祭りがあって、
イエスはエルサレムに上られた。

5:2 さて、エルサレムには、羊の門の近くに、
ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があって、
五つの回廊がついていた。

5:3 その中に大ぜいの病人、盲人、足なえ、
やせ衰えた者が伏せっていた。

5:5 そこに、三十八年もの間、病気にかかっている
人がいた。イエスは彼が伏せっているのを見、それ
がもう長い間のことなのを知って、

彼に言われた。「よくなりたいか。」

5:7 病人は答えた。「主よ。私には、水がかき回されたとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。行きかけると、もうほかの人が先に降りて行くのです。」

5:8 イエスは彼に言われた。「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」

5:9 すると、その人はすぐに直って、床を取り上げて歩き出した。ところが、その日は安息日であった。

イエス様はベテスダの池に行かれました。
ここは温泉のようなところで
時々お湯が噴出する温泉病院でした
ここに多くの人々が病人が運ばれてきました。

イエス様は38年間もの間病気に
かかっている人に目を止め
声をかけられました。

良くなりたいのか？

この男は「はい。よくなりたいです」と
応えていません。

「主よ。私には、水がかき回されたとき、
池の中に私を入れてくれる人がいません。
行きかけると、
もうほかの人が先に降りて行くのです。」

この病の男

38年間という長い間、病で自己実現の出来ない不毛の人生を送っていた。

病が長いので家族や友から見放され愛されない孤独な人生を送っていた。

水がかき回される時、いつも人が我先に行ってしまう、敗北の人生。

医者からも見放され、多くの医療費を使い果たして貧困のどん底の人生。

自分の努力で何もできない、
人も何もしてくれない、
38年も放置された孤独な絶望の人。

5:8 イエスは彼に言われた。
「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」

イエス様のお声にはやさしさと
力があつたのでしょうか。

イエス様のまなざしには愛が、慈しみが
満ちていたのでしょうか。

イエス様の差し出された手から
温かさと力が伝わったのでしょうか。

この男は
イエス様のことばを聞いて
信じて心に受け入れた時、
イエス様のことばの力が心に働いて
立ち上がろうとする思いが湧いてきました。
起き上がろうとすると
体に力が働いて、起き上がることができ、
床を取り上げて歩き始めました。

信じるとは自分の力を信じるのではない。

自分には全く力がない、

自力では何もできない。

そんなとき、イエス様のことばを信じて、

心に受け入れ、応答することです。

アブラハムは子供が与えられると心で信じた。

このベテスダの男はイエス様を見つめ、

イエス様のことばを信じて応答した。

心が素直になって立ち上がろうとした。

その時イエス様の力が働いて

歩けるようになりました。

信じるとは

自分の無力さ、汚さを見ない、
自分の過去や人の判断に縛られない。

今までのひねくれた心から離れる。

人のことばや経験、常識に束縛されない。

ただただイエス様は神であると信じ、
イエス様のことばを信じて応答していくこと。

信じたベテスダの男は
床を取り上げました。
自分が寄りかかっていた唯一の財産、
床を取り上げた。
自分は病気、無力、役に立たない、
愛される資格がない、
という象徴の床を片付けました。
敗北感、無力感、劣等感、敵対心、
これらから解放されて、
これらの染みついた床を撤去して
新しい人生を歩み始めました。

ベテスダ男は歩き始めました。
イエス様を仰ぎながら
自分の人生を歩き始めました。
自分の足で自分の道を歩き始めました。
イエス様を信じることは、
神様の与えてくださった
自分の人生の道を歩くことでもあります。

人と比較したり、人を妬んだり
うらやんだりしないで、
神様が与えてくださった自分の道を
信仰によって歩むことでもあります。

自分を否定的に見る床を片付けて
無限の愛のイエス様のことばを信じて
一步を踏み出して歩みましょう。

祈り

主イエス様、自分の弱さ、苦悩の中を歩んでいる
私たちを見つめて声をかけてくださったことを感謝し
ます。主の呼びかけに応答する力さえも与えてくだ
さったことを感謝します。信じますと答えたことによっ
て、神様から力をいただき、
主との交わりに入れていただいたことを
感謝します。

私たちは無力でありましても、神様の恵みをいただ
いて歩めることを感謝します。この救いの恵みを受
け入れて神様と共に歩まれる方が導かれるように
祈ります。アーメン。